

## 印西市廃棄物減量等推進審議会会議録

- 1 開催日時 令和5年3月23日(木) 14時00分から16時20分まで
- 2 開催場所 印西市文化ホール 多目的室
- 3 出席委員 小熊清委員、山崎久恵委員、友野吉弘委員、遠藤康子委員、吉村仁委員、坂口育子委員、吉岡明委員、森内栄一委員
- 4 出席職員 藤巻孝クリーン推進課長、鈴木昇推進係長、泉田隆之主査
- 5 傍聴者 無し
- 6 次第
  1. 開会
  2. あいさつ
  3. 議事
    - (1)第3次印西市ごみ減量計画の施策について
    - (2)第3次印西市ごみ減量計画の目標値について
    - (3)その他
  4. その他
    - (1)印西市災害廃棄物処理計画について
  5. 閉会
- 7 配付資料
  - ・次第
  - ・前年度との月別原単位比較(資料1)
  - ・第3次印西市ごみ減量計画の施策の進捗について(資料2)
  - ・第3次印西市ごみ減量計画の目標値について(資料3)
  - ・令和4年度生ごみ処理容器等利用者アンケートの集計結果
  - ・印西地区ごみ処理基本計画概要版(案)
  - ・印西地区災害廃棄物処理計画概要版(案)
  - ・印西市災害廃棄物処理計画(令和5年3月改定)
- 8 会議概要
  - (1)資料1及び資料2に基づき説明を行い、意見等をいただいた。
  - (2)資料3に基づき説明を行い、意見等をいただいた。
  - (3)施策の進行管理方法について、意見等をいただいた。
- 9 審議経過
  - (1)第3次印西市ごみ減量計画の施策について
    - 議 長 それでは議題の1、第3次印西市ごみ減量計画の施策について、事務局より説明をお願いいたします。
    - 事 務 局 ～資料1について説明～
    - 議 長 一旦、資料1で、区切らせてもらいたいと思います。今までのところでご質問等ございましたらお願いします。前回の時には折れ線グラフだったものを、皆さんの要望もありましてわかりやすくということで棒グラフになっています。
    - 委 員 データには無いのですけれど、廃食油についてちょっと気になっていることがあってお伺いしたいのですけれども、廃食油って、回収場所にこれを出すときにいつも「少ないな」という感

覚が自分にはあって、市民の方の、大体これぐらい使っているだろうというもの、何割ぐらい回収できているものなのでしょうか。結構、新聞紙に吸わせて、燃やすごみに捨てている方って、やはりいっちゃうのではないかと今でも思うのですけれども。

事務局 そうですね。なかなか全体として、油を使っている量というものが、なかなか把握ができないところではあるので、全体のうちのどれぐらいの割合かというのは、なかなか予測する事が難しいところもあるのです。

議長 大手のスーパーや何かの、食用油の販売量というのはとらえられないのですかね。聞くわけにはいかないのですか。現実問題として難しい。正直に言ってスーパーは、印西市の人達だけが利用しているわけではないですからね。総量で見えてしまうと、すごい量になる訳です、現実には。ご存知だと思うけれど、いろいろな施設に廃食油の受け付けのボックスがありますので、私も機会があるごとに見ているのですけれども、結構入っていますよ。

委員 わかりました。

議長 回収量はとらえているのですよね。

委員 感覚として、回収量をご存知だと思うのですよね。なので、まだこの回収量では少ないという感覚でいっちゃうのか、それとも充分回収できているという感覚でいっちゃうのか、どうなのかというのが気になっていたのです。

事務局 回収量としましては、令和2年度に、約7.5トン、令和3年度に6.2トンの回収をしております。先ほどありました、回収場所にあまり無いというお話しがあるのですけれども、毎週、回収に行っていますので、そんなに溜まるような事はなかなかないと思っております。この令和4年度、令和3年度の7トン、6トンというのが、多いのか少ないのかと言われますと、油をいっぱい使う家とそうでない家もありますし。ただ、おっしゃられるように、燃やすごみで出される、固めるテンブルで固めて、燃やすごみとか、新聞紙に吸わせてとか、いろいろな処理方法がございますので、それをなるべく回収の方に回すというのものもあるのかもしれないのですけれども、啓発の方に努めていきたいというように思っております。

議長 分母がとらえにくいものですから。世帯数はあるのでしょうかけれども。

委員 回収した油というのは、多分軽油か何かに戻るのですよね。ジェット燃料がどっか知らないですけど、

事務局 回収した油につきましては、ある程度貯めまして、丸正という業者に販売しています。

事務局 1種類ではないですね。インクの原料とか、飼料にするとか、ちょっとその辺は業者によって違うのでしょうかけれども。今の会社の前の時には、廃食油を使った、ディーゼル燃料に変えるプラントに持っていった時代もありますし、今は違うところに売却していますので、ちょっと用途的には前の比率とは異なっておりますけれども、買い取っていただいて、資源化しているという形です。

議長 以前、私も追いかけたのですけれども、松戸の方の業者が回収して、植物性のインクに主に使っているというのは、お話は聞いたことがあります。残念ながら工場見学まではして無いのですけれども。では、次回の時に、情報としてどのような利用をされているかというのは、流していただけますか。

事務局 比率もありますので、もうちょっと詳細なデータがあれば。

議長 次回の時結構です。

委員 地球温暖化は、CO<sub>2</sub>がどんどん増えるというところで、この油の回収というのは、僕は非常にCO<sub>2</sub>を、石化系燃料からCO<sub>2</sub>を増やさないという意味で、これは大事だと思うのですよ。だ

から新聞にばら撒いて、一緒に焼却するというのは、焼却したらCO<sub>2</sub>も全部出るわけですから、できるだけ回収を推進していただきたいと私は思っていますけれども。

議長

他にいかがでしょう。

委員

事業系のごみなのですけれども、今年度若干増えている形にはなっているのですけれども、事業所が結構増えていますよね。これは1日当たりの排出量で取られているので、事業所が増えると当然増えてくるものだと思うのですけれども、その増え具合というか、一社あたりの全体の増え具合として、事業所の数とごみの増え方というのはどんな関係になっているのですか。まあ、増えてきて当然だと思うのですけれども、事務所が増えるから。その中で、事業所自身が努力して抑えてきているのだけど増えてしまっているのか、その辺のところはわかっただら教えてもらいたい。

議長

確か前回のときも、店舗数といいますか事業系の方の量のお店の増加の数字云々の話が出たかと思うのですけれども、その点はどうですか。

事務局

事業者数の具体的な数字というのは、なかなか追えていない状況ではあります。

委員

非常に難しいと思うのですよね、業種によっても違うし、その事業所の大きさによっても違うので、一概になんとも言えないのですけれども、例えばその事業所の数を下にこう、折れ線グラフか何かで書くとか、そんな事をすると何か、でもわからないのかな。何かもうちょっといい方法があればいいかなと思うのですけれども、無いのですね。

議長

事業所数は捉えられるのですよね。経済振興課かなんかでは捉えていないのですか。業種云々までは難しいのでしょうか。

委員

業種でだいぶ違うと思うのですよね。

議長

業種でももちろん、廃棄物が出る業種と出ない業種によってありますからね。

委員

なかなか捉えるのは難しいかな。これやむを得ない事かな、とは思いますがね。

議長

確かに、今までですと、事業系も原単位って簡単に出していたのですけれども、事業系自体は人口で割っても、全く根拠がない世界の話なので、家庭系と違うものですからね。

事務局

排出日量で表しているところはあるかと思うのですけれども、なかなか、分母となるものが、出すところが難しいというところがあります。ですので、総量を減らしていきましようというような目標値になっております。

議長

特に、印西市の場合はもうご存知のとおり、大きな物流の倉庫が増えていますので、物が動いているのですけれども生産性がありませんから、ああいうところからだと、実質問題として廃棄物がほとんど出ない状態ですよね。段ボールなどは出ても全部資源物ですからね。

事務局

段ボールなどは資源化されているようです。

委員

事業系ごみの把握は、焼却場に事業系のごみとして持ち込まれる量を測っているのですか。

事務局

印西クリーンセンターの方から事業系ごみの量の数字をいただいて、出している数字であります。

委員

そうすると、事業者が自ら、事業者の中で処理するようなものは入っていないという事ですよね。

事務局

事業者から収集運搬の業者を使って、クリーンセンターに持ち込まれたものの総量という話です。

委員

わかりました。

議長

それがこの数字ですよ。そういうことですよ。印西市に関わる、事業系の持ち込み量

が、ここに出る訳ですものね。以前の比較の中では、総量に占めるところの家庭系と事業系の比率のグラフがありましたよね。

事務局 そちらはちょっと、省かせていただいてしまったのですけれども。令和4年度の目標値が決まっているもののグラフを作らせていただきました。

事務局 事業所数につきましては、後でいろいろなところのデータを引っ張って、次回、報告させていただければと思いますが、いかがでしょうか。今、手元にすぐに出る資料は無いので。

議長 そういう形で、次回にでもまたお示しください。お願いします。

委員 資料を見せていただいて、目標値があって、実際のごみの量がある訳ですけど、このように、順調に減っているというように素直に受けとめていいものなのか、目標値に対して大幅に、それでも高い状況があるとかいうことに関して、やはり数字でのデータだけではなくて、それに対する分析というのはどうなのかな、というのはありまして。要するに、いろいろな施策をして、こういう数字になった訳ではないですか。そうするとその中で、何が効果があって、何が効果が無かったのかとか、そういう分析があって、では次はどうしようかという話になっていくのではないかと思うのですね。だから数字だけではなくて、やはりその、結果になった時にその結果から、どんなことがわかってどんなことが、という分析というのがあれば、すごくありがたいなと、今、資料を見て思ったのですけれども、要するにこれは、目標値はこれだけの量ですよ、去年より若干ごみの減量が進んでいますよ、というのは、順調にそうなのかそれとも。というのも、見通しもありますよね。これから先に増えてしまうのか、いろいろな環境の変化があるから、一概に難しいところだと思うのですけれども、やはり試行錯誤だと思うので、そうすると結果から出た分析をして、それに対してどうしようか、というような話が大事なかなって、これはあくまでも個人的な感想ですので、そのような事をちょっと考えました。

議長 今、おっしゃられている事は、おそらくこれは2か年度だけの比較なのですよね、このグラフは。ですから、いろいろな施策をやってきつつ、その施策が徐々に効いてくるのは、何年度かの、過去のトレンドが見えないと出ないので、総量や何か年度単位の月単位はこれでもいいのでしょうか、年度単位の全体の傾向が見えるような形のグラフがあると、もう少しわかりやすいのかと思います。特にいろいろな施策があるのですけども、決定的な施策、一つの事をやった後に思い切り下がるような世界ではありませんから、ごみの問題は。いろいろなものが相関してきて少しずつ、減量なら減量になったり、逆に言うと増量になったりというものがありますので、そこら辺もちょっと工夫してもらえれば、それがPDCAを回せる形になるかと思うのです。

委員 私はそうではなくて、年度が終わっていないので、これは途中経過で、結果を評価することはまだこの段階ではできないので、このグラフになっているのだという理解なのです。この年度が終わった後に、このデータをまとめて、ごみ減量計画実施報告書とか、そのような形で取りまとめれば、今、おっしゃられたようなことが出てくると思うのです。だから、そういうものを作ったらいいのではないかと思いますけれども。

議長 いかがですか。何年かのトレンドが取れないと、見えないのではないですかね。

事務局 次回の審議会の時、多分来年度になると思うのですけれども、令和4年度のもの、全部データがまとまった時に、廃棄物の処理概要というものを作りまして、その中には令和4年度の数字が全部、年度単位で比較したりとか、そういった表は入っていますので、その中で説明を行っていきたいというように考えております。

議長 そんな形でよろしいのでしょうかね。全体が見えるような形にさせていただくという事で。

委員 ちよつと基本的なことなのですからけれども、原単位ですと人口ですよ、人で割るという事は。その人口は、いつの時点の人口を使っているのかと、ちよつとわからなかった。例えば、令和3年度、令和4年度とありますよね。その場合、その人口はいつでしょうか。

事務局 このグラフで使用している人口につきましては、毎月追いかけておりますので、ひと月のごみの量と、その月の月末の人口で割り返して計算しております。

委員 広報に載せるようなものですか。

事務局 そうです。市民課から発表される数字を利用しております。

委員 わかりました。

議長 他はいかがですか。では資料1のところにつきましては、以上にしたいと思います。では、次をお願いします。

事務局 ～資料2、1-1から1-3までについて説明～

議長 中身が少し変わりますので一旦ここまでで、1-1から1-3までのところで、区切らせていただいて、皆さんの方から質問、その他ありましたらお願いします。

委員 聞きたいのは、生ごみなのですからけれども、現在、生ごみの処理をしない方というのは、燃やすぐみに混ぜて排出しているのではないかと思うのですけれども、そうした場合に、今、焼却場で、生ごみがどれくらいのパーセントで含まれているかというのは、データをお持ちですか。難しいですよ。

議長 一番新しい組成分析は、いつのがあるのですか。

事務局 一番新しい組成分析は、令和4年度に実施したもので、ちよつと今、数字を持っていないので、後で報告させていただければと思うのですけれども。集積所の中から、何袋かピックアップして、その中身を調べた組成分析があります。クリーンセンターの方でも、分析は行っています。そちらは事業系ごみが入ってくるので、またちよつと割合が違ってくるようにはなってくると思うのですけれども、こちら分析をしている形です。

委員 ちよつと、勝手な心配なのですからけれどもね。生ごみの処理設備を使った方というのは、そのごみを肥料に再利用するとか、されている訳ですよ。ところが、印西市もマンションがどんどん増えていますよね。マンションにお住まいの方というのは、そのごみを持って行くところがないのではないかなと。そうするとですね、今の状況、生ごみの処理設備の費用を負担しますよというようなものではですね、これから生ごみの量は減らないのではないかなと。

議長 ちよつといいですか。今ちよつとこちらの内容についての、質問、意見の話なので。

委員 それで、もう少し、生ごみの水切りの啓発はいいのですけれども、生ごみ処理容器購入の補助制度の継続、これだけではちよつと足りないのではないかなと。もう少し何か。

議長 それは逆に、これからの施策の中でのご意見として、出していただきたいと思います。今はこちらの方の計画の進捗状況と、その報告ですので。ではここで、先ほど資料で出してもらっている利用者アンケート、これをちよつと簡単に説明していただけますか。せつかくアンケートをとっていただいているので。

事務局 ～利用者アンケートについて説明～

議長 先ほどの質問の関係かと思うのですけれども、問3のところ、私も見て感想なんですけれども、集合住宅の方は、約2割ぐらいなのですね。集合住宅ですと、自分のところで処理できない部分がありますので、そちらの方が多いのかなと思ったのですけれども、逆に2割ぐらい、18%とかという数字なので、意外だと思いました。

事務局 今、マンションとかのお住いの方で、まだ割合が少ないということもありますので、この結

果も踏まえまして、こういうところなどに周知をしていったりとか、今、バイオ式ではなくて、乾かして減量化だけするような、そういう生ごみ処理機もありますので、そういったものもありますよ、というようなことを周知していきたいというような事も考えております。

議 長 ありがとうございます。  
委 員 ちょっと教えていただきたいのですけれども、この補助制度を作った目的というのは、ごみの減量という事なのですか。それともその、自然に返すみたいなそういう目的なのですか。減量という事であれば、それ用にやっていっておけば、それはそれですごく減量になっていいと思うのですけれども、今、おっしゃられたようなことが目的だとすると、ちょっとその辺がどうなっているのか知りたいのですけれど。

事 務 局 こちらの目的としましては、ごみの減量が、やはり目的となります。バイオ式であっても、乾燥するものであっても、やはりごみの量は減ります。その副次的な作用として、臭いが気にならなくなったりとか、肥料として使えるものが出てきたりとか、そういったものがありますが、やはりその生ごみをそのまま出した時と比べて、やはり処理機を通した後というのは、随分、大きく生ごみの量も減りますし、乾燥したのになりますので、ごみ質とか、軽くなったりとか、そういったごみ出しが楽になったりとかいう意見もありましたし、そういったところの効果もあるという考えでいます。

委 員 それで、その処理機というのは、電気代はどれくらいかかるのですか。あまり大量に電気を使うようであれば、どうなのかなというところはちょっと疑問が残るのですけれども。

事 務 局 一般的には捉えていないのですけれども、最近は割と省電力型というか、そういったようなものもどんどん出てきている。また、処理容器の方につきましては、普通のコンポストみたいな、ああいうのは消費電力もかからないので。ものによるのですけれども、乾燥するものだと乾燥する時に電気を使ったりとか、バイオ式でも温度を上げる時にちょっと電気を使ったりとか、そういったものはございますが。

委 員 補助制度で買える機器を指定とか、あまり電気を食うコンポスターは駄目だとかという、そういうことまでは決まっていないのですね。

事 務 局 そこは決まっておられません。

事 務 局 ちょっと今、確認すると、電気代というお話だったので、かなり安くなってきていると思うのですけれど、熱処理式で約30円から37円、1回ですね。バイオ式で0円から129円、ハイブリッド式で、約40円くらいというようなデータがあるようです。また、大きさによっていろいろありますので、一概にどれくらいというのはなかなか出しにくいのかなと。機種によってという形になります。

議 長 そうですね。大きさ、容量、あと使用頻度も消費電力の方は関係してくるでしょうね。他はよろしいですか。

委 員 生ごみの減量を目的として、生ごみ処理容器を、これ拡大したい訳ですよ。今のこのアンケートは、11万人、人口がいる中の84世帯でしかない訳ですよ。そうなってくると、当然、これで効果を上げていくためには、今後これを活用する人たちを増やしていかなければいけないという事になると思うのです。そうなってくると、令和5年度の活動目標というのは、どうやって拡大していくのかという事を、やはり真剣に考えていかないと、生ごみの減量には繋がらないのではないかと思うのですが。そこを具体的に取り上げて、どうやってこれを使用させていくのかという部分ですよ。広報と書いてありますけど、それだけでいいのだろうかというところなのかなあ、と正直思ってしまうのですけれども。84世帯しか使っていないならば、

現在のところ生ごみの減量には繋がらないというのが現実問題ではないのかな。そうしたら、令和5年度は、では結局それをどうしていこうかということになるのかと思います。

議長 確か、前回の資料で今までの累計の数字がありましたね。そうすると全世帯数に対する設置率が確か出ていたと思うのですけれどね。

事務局 7%から10%というくらいの世帯に、今までに交付・設置という形だったと思います。

委員 生ごみの減量なのですけれども、私、この処理機を挫折したのです。電気代がかかるのと、ちょっと出てきたものをうまく活用できないということで、挫折したのですね。それで、以前いただいた資料で、家庭系の燃やすごみのうち、生ごみが約4割を占めるという組成分析があって、なおかつその水分量が8割を占めるということで、だから水分を絞りましょう、みたいな。実は、何かそちらの方がすごく効果的というか、毎日のそういう積み重ねが減量に繋がるのではないかなと、主婦として実感を持っているのですけれども、ちょっと一番の水切りの啓発が結構スルーしてしまっているのですけども、今回、のぼり旗の設置によって、啓発が増やされているので。この辺の水分をいかに、ひと絞りでいい訳ですよ、ある意味ではね。そういうことを、実はすごく効果があるのだということ。私はその処理機からですねそちらに変えたのですね、もう。やはり3.11があって、もう電気はやめようと思ったので。だから処理機はオールマイティーではないので、使いたい人は使えばいいし、お試しでやりたい人はやればいいし、多様性、いろいろな方法で減らしていけばいいので、この一番の方の啓発が非常に大事ななと思って、増やしていただいてよかったです。

議長 今、おっしゃっていた、来年度のこの基数ですが、基数はこれも予算的なものも当然ある訳なのでしょう。ですから、一気に量を何百とかに増やせる訳にはいかないでしょうね。

事務局 限られた予算内ではあるのですけれども、その中で、なるべく多くの方に生ごみ処理機の補助ができるように、補助率の見直しなども含めて、検討しております。

議長 特に、日常、簡単にできる水切りは、皆さんが率先してやってもらえば、効果が大きい訳ですけどね。

委員 やっていないですから。いかに水分が大事かって知らないのですから。

委員 だから、その活動目標のところですね。そこが全然浸透していなければ、そういう事になる訳ではないですか。だから、どうしたらそれが広げられるのかと。別に処理機がどうこうという事ではなくて、生ごみの減量をするために、そういった考え方を広めるためにどうしていったらいいのだろうかという事を、やはり考えていかなければいけないのかなというように思って発言したところでございます。

議長 そうだろうと思います。

委員 例えば私なんかはもう、印西にずっと仕事をしていて、もう二十何年ですけど、一度もその事に触れたことがないので。だからそれというのはやはり、「ああ、そういう活動しているんだ」と、初めてこの会議に来てわかったという現状ですよ。正直に申し上げます。

委員 でも、事務局というか、役所の方で、広報に毎月毎月、確か15日号だったと思うのですけれども、ごみに関する記事を書いてくれて、その中でいろいろ触れられているので、非常に努力されていると思うのですよ、事務局が。だから、例えばそれを1割増やすとかという事で、その努力を積み重ねてもらえれば、この先に進んでいくのではないかと思いますけれど。

委員 今、絞る水をね、野菜とかだ思うのですけれど、野菜くずをギュって絞ることプラス、ザルに野菜の皮むきをしたその皮を入れておくのです。ザルに入れて、半日なり置いておくと乾燥するのですよね。それから捨てるというやり方も、もしかしたら印西市では多分紹介してない

かなと思うのです。それも一つ、その水分を取ってから捨てる方法として紹介していただいてもいいかもしれません。

委員 何か具体的に提案してとか紹介する。他の自治体でも急に、水切りとか結構熱心に広報するようになっていきますよね。

委員 そうしたら、水切りのアイデア募集とかそんな感じのことをやっていただければ。

委員 そうするのが楽しくていいですね。

議長 そうですね。せっかく動画のアプリ等ありますから、そういうようなものをどんどん載せるようにしてください。私もかつて、グラムを測ったやつで、パワーポイントでもやっていますので、インパクトが強いと思いますので、よろしくお願いします。

委員 例えばこんな、生ごみが、ごみの処理の中で、ある程度の事をするとかかなり効果があるということであれば、環境教育をやっているんで、学校に働きかけながら、環境教育の一環として、そういうものを子供たちの間にも広めていくという事も有効な方法なのか。特に、クリーンセンター見学を各小学校はしていますので、そういう中でやっていただいているのかもしれないけれども、さらに強力に推し進めるのもいいのかなと思いました。

委員 生ごみしぼり機を配布、約250個とあるのですけれども、これは私もいただいたのですけれども、これも挫折してしまったのですね。挫折した人も結構います。だから250くらいがちょうどいいかと思って。ちょうど経験させていただいて、さっきおっしゃったように、アイデア募集とか、ザルに乗せるとか。その方が、ひよっとしたらすぐてきめん効果があるかもしれないですね。

議長 先ほどお話のありました、前回の、クリーンセンターの見学云々の後の話も、教育委員会の方にも働きかけはしていただいているのですよね。

事務局 そうですね。あと、さんあ～のタブレットへのインストールの件についても、今、ちょっと進めています。まだ回答が来ていないのですけれども。

議長 ありがとうございます。

委員 これに関して、この間、テレビのニュースか何かで見ただけなのですけれども、日本の生ごみの分別精度というか、分別のレベルですね、低いらしいですね。韓国よりも低いと言っていました。詳しく調べてないので、何もわからないのですけれども、もう少し、生ごみの分別精度というのを上げていかないと駄目だと。だからそういった、もう少し何かいろいろ対策を考えていただいているのですけれども、もう少し、市民に分別を強制すると言ったらおかしいのですけれども、ある程度、何かガイドラインを作っていくかといけないのかなあ、というのは意見です。

議長 では、時間の関係もありますので、今までのところはちょっとこれで。次のページの方に入ってくださいよろしいですか。1-4からお願いします。

事務局 ～資料2、1-4及び1-5について説明～

議長 こちらも、アクション1で区切りましょう。1-4、1-5のところまではどうですか。

委員 訪問指導という事なのですからけれども、何か指導する基準みたいなものはあるのですか。

事務局 今回はですね、指導する基準というか、こういうところを見て回ろう、みたいなチェックシートを作りまして、それを基に見に行きはしたのですけれども、実際のところ、見に行ってみるとやはり業種によって、結構、いろいろ様々な状況は異なっているところがありましたので、なかなか、「ここをこうしてください」みたいな指導をするのが、ちょっと難しくなっています。どこの業者もやはり、多量排出事業者みたいに大きいところになると、できる事は当然やってい

- るといような形にはなっております。
- 委員 いいのではないですか、それで。
- 事務局 資源化も、先ほど言った物流倉庫のダンボールのところなどは、プレス機をリサイクルの事業者からリースして、それで大量に、リサイクルをしたりとか、あと分ける方も、ちゃんと分けてやっていたりしている状況ではありません。
- 委員 それで、行って、きちんとやられていればそれが一番いいことなので、それは非常に効果があると私は思います。それで、できれば、ある程度基準みたいなものを作って、変なところがあればちゃんと指摘して、改善してもらおうとかいう事で進めれば、よろしいのではないかと思います。
- 議長 他はいいですか。
- 委員 素朴な疑問です。あの、ごみ袋あるではないですか。印西市のごみ袋って、大と中ではないですか。大って何リットル入る、45リットルですか。
- 議長 40リットルではなかったでしたでしょうか。
- 委員 通常、45リットルなのですよ。
- 議長 45リットルですか。すいません、数字間違っているとあれなのですけれども。
- 委員 ごみ袋、普通のジョイフル本田とかで売っているごみ袋というのは、容器っていうのは大体45リットルで作っているのですよ。いや、なぜそんなこと言ったのかというと、何か大きいような気がしてね、印西市のごみ袋って。どうなのかな。今日、セブンイレブンで見えたら、45リットルと書いていないのですよね。縦の長さが何十センチ、横は何十センチって書いてあったので、ちょっと素朴に。他の市町村では大体リットルで書いてあるのですよね、容量で。なので、どのぐらいの容積が入るのかわからなかったの、聞いたかったのですけれど。
- 議長 現実問題として、フルに入れると、持ち上がりません。
- 委員 だから、大きいということですよ。
- 議長 生ごみなんかをフルに入れると持ち上がりませんし、実際に回収業者さんのいろいろな本を読みますと、半分ちょっと多いくらいにしてくれないと、パッカー車に積み込むのが、重くて大変なのですよというようなことまで書いてあるぐらいですから。
- 委員 なんでそんなに大きいのだらうと、実際、素朴に思ってしまったのですよね。八千代市は45リットルなのですよ、大きさが。ちょうどすっぽり入るわけです。そうすると、いっぱいいっぱいに入れても、別にそんなに苦もない訳ですよ。ところが、大きいと週2回ではないですか。夏なんかはごみを入れて臭くなったらいやだからと、中途半端に縛って捨てるけど、当然、そのゴミ袋の分だけごみが増える訳ではないですか。効率が悪いな、なんて実は思ってしまったのです。それで、何でそんなに大きいのかな、なんて思って、ちょっと、本当に疑問ですから。
- 議長 持ち手をわざと大きくしているのは動物対策で、それから搬入するときに持ちやすさのために、上を2周に縛れるような構造になっているのですよ。そうしないと、上が縛れませんか、そのままではパッカー車に入れるときにこぼれてしまいますし、それから猫だとかカラスだとか鳥が来ますので、必ず口は縛りましょうというのをやっていますから。
- 委員 縛りますよね。おそらく、どこも縛ると思うのですけれども、45リットルでもね。それってだから、リットルで言うと大きいのですよね、やはり印西のごみ袋ってね。
- 事務局 燃やすごみは3種類ありますので、作りは他の自治体と一緒にだと思えます。大体同じようなサイズ感だと思います。

委員 そうですか。中を見たらこれくらいですよ。横30センチって書いてありました。自分のところだと、45リットルでこのくらいなのです。いや、なぜかというごみ袋が大きすぎて、どうなのだろうなと思ったものだから、ちょっと感じてしまっただけなので。

委員 40リットルというと、石油のポリタンクあるではないですか。あれが20リットルだからあれ2つ分くらいの大きさのイメージですよ。

議長 そうですね、入りますよね。

委員 という事は、中が45リットルあるという事ですね。

事務局 大が45リットル。

委員 大が45リットルなのですか。

事務局 それで、中が30リットルで、小が15リットルと書いてあるのですけれども、実際に入れてみてどれくらい入るかというのはちょっとわからないのですけれども。

委員 いやいや、それが同じなら全然、僕の疑問は解消されます。

議長 あまり大きくすると、正直、女性とか高齢者は運べませんという話は聞いていますね。

委員 大きいと判断してしまったので、すみませんでした。

委員 ごみ手数料のところなのですからけれども、担当者会議で検討するということなのですからけれども、これはお願いなのですからけれども、印西市として、手数料についてどう考えるのか、きちんとまとめて、その中で、きちんと話をしたいと思っています。それで、手数料についてどう考えているのかを教えてくださいたいのであればありがたいのですけれども。

事務局 ごみ処理の手数料につきましては、いろいろなごみ減量施策があると思うのですが、これはごみ減量施策を行った中での最終手段といえますか、いろいろなごみ減量施策を行ってもなお、目標値が達成できないような時に使われるような手段なのかなというような形では考えております。ですので、まだ、他のごみの減量施策とかをやる余地が残っているのであれば、まずそちらの方もやるべきではあると思うし、安易に「ごみの有料化をすればこれだけ減るんだ」みたいな考え方はちょっと違うかな、と思っています。

委員 例えばそうすると、この減量計画があつて、目標年度がありますよね。その目標年度に目標が達成できなかったとか、そういう時点をとらえて、考えて、もう一度こうやっていくと、そんな感覚でいいですか。

事務局 そうですね。具体的にどうなれば、ごみの有料化をせざるを得ないとか、そういったところはまだ具体的には、決まっておりません。

委員 びっくりしてしまうのは、八千代が240円、佐倉が100円ですよ。印西が多分45リットルであれば160円、10枚で。20枚で320円でしたよね。自治体によって全然違うのですよね。

事務局 印西市は有料化ということではなくて、ごみの袋代ですね。有料化とは違います。

委員 でも他の自治体もそうなのですかね。

事務局 袋に手数料を転嫁している自治体もございますけれども、印西市の方は、有料という事ではないです。ごみ処理は無料でやっている。

委員 高いところはそこに手数料を入れているということですね。

議長 処理費が入っているのです。基本的には、行政が廃棄物の処理をやりなさいという決まり事になっていますので、ですから、行政側が皆さんの税金で処理をしている訳です。今は袋代だけ買っていたのと同じ形なのですよ。ですから、行政の方で、処理費がもう出せなくなってしまうと、結果的には利用者に処理費の負担をしていただく、というのが有料化の考え方です。

委員 ちよつとわからないのですが、そうしたらその袋の上に、ごみ手数料分がいくらとか書いてあるんですか。

議長 いや、書いてありません。

委員 いくら取られているかはわからないのですか。

議長 いや、それはもう行政側がわかっています。

委員 でも、負担する人がわからないと。

議長 それは公表して販売していますから、有料化は、今の袋代は、事務的な分の袋代なのですがけれども、処理費は、行政が現在、全部負担しています。事業系の場合には事業者が負担をするという形になっていますので、そこが大きな違いですから。当然の話ですけれども、審議会の方で有料化云々は、決められる世界ではありませんので、行政の最終的には、環境組合それから議会の方のそれぞれの自治体の方の承認があって、初めて有料化はスタートできるという形なのですね。

委員 ここは審議会だから、いろいろな自由な立場で、別に決める、決めないは議会のやることですから、ただ審議会というのは、そういうところで、いろんな見地で考えていけばいいし、そういう意見もあるというような出し方でやるべきところですよ。ここはね。別にここで決めるなんて話は誰もしていないし。減らすということを端的に考えていけばね。減らすことが目的でこの会は開かれている訳ですから。当然のことながら、そうすることで、減らすことができるという現実的な話になるし、それを答申と言っていいのかな、その中に盛り込むことは決して悪いことでも何でもないし、至極当然の事ではないかな。決めるのは行政であり、議会であるという前提の上でお話をすればいいのかなと思いますけれどね。だから、別に出て全然構わない話ではないですか。無料を前提に話し合いをする必要は私はないと思います。

議長 先ほどの担当者会議だとか、組合の方で、どういう打ち合わせをしていて、どういう流れになっているかというのは、時々報告していただきたいと思いますので。前回の議事録の方にも、そのあたりの事は書いてありますから、よろしくお願ひしたいと思います。

委員 先ほど言われたような事って、こういう中には書けないのですか。有料化についての評価の中には。もつとも事だと思うのですけれども。書きにくいのだろうけれども。

議長 あんまり馴染まないのではないかな。

委員 いや、検討した結果がそういう判断なのでしょうから。

事務局 クリーンセンターの構成市町の中でも、結構その考え方というのは、有料化については特に、異なっているところではありますので、なかなかちよつとまとまりにくいところではあります。

委員 でも、考え方としては、市民に負担を求める前に、行政側としてやれることがあるから、それをすべてやったら負担を求めますよという、そういう考え方ですよ。それはそれでいいと思います。

議長 では、その表記の話はちよつとご検討いただいて。ではアクション2の方に移らせてください。お願いします。

事務局 ～資料2、アクション2について説明～

議長 アクション2について、どうぞ。

委員 子ども服リユース事業、おさがりマルシェを、来年度は1回にするというのはどういったことで、今まで2回やっていたのですよね、それを1回にするというのは、どういう理由で1回なんでしょう。

事務局 2回開催していたのですけれども、中央駅の方とか、牧の原駅の方にリサイクル事業者が結構できてきておりますので、そちらの方の利用もしていただきたいということで、1回開催で実施していきたいなど。

委員 こちらを勧めるという事ですか、

事務局 そうですね。そちらも利用していただきたい。

委員 たくさん利用してくださいという事ですね。わかりました。

議長 好評だったのに、残念ですね。

委員 たくさん利用されている方、いらっしゃったみたいなのですけれども、それを1回にするのはどうなのかなと。今までどおり2回に、ということはないのですね。

事務局 はい。

委員 特に子ども服とか、利用する方が多いと思うのですね。子どもってどんどん成長しますから。そういう方たちが、もっとたくさん利用できるように、2回あってもいいのではないかと思ったのですけれども。

議長 他はいかがですか。

委員 2-1の②のごみ減量化説明会の充実とある、これは言葉の問題なののですけれども、クリーンアドバイザーを講師としたごみ減量化等説明会の実施、これ、単なる説明ではなくて、研修とか、そういうような意味合いではないですか、研修会とか。一方的に説明してそれで「はい、おしまい」という事なのですかね。何かお互いに、こう少し勉強するような意味合いがあると思うのですけれど。

議長 これはちょっと言葉が足りないのです。実際にクリーンアドバイザーをやっているのですけれども、分別体験までやってもらっています。説明するだけではなくて。

委員 もう少し踏み込んだことをやっているのですよね。

事務局 事業の名前として、ごみ減量化等説明会になってしまっているところです。

委員 なんか、単なるごみの出し方の説明みたいな、そんな雰囲気がある。

議長 説明会だけではね。実際には、これはこういうふうに分けてくださいというものを二、三十品目並べて、それを実際に分け方をやってもらって、それにまた説明をするというような形でやっていますね。

委員 学習会とか研修会とか。

議長 研修会みたいな形になりますね。

議長 では、よろしいですか。次、アクション3の方お願いします。

事務局 ～資料2、アクション3について説明～

委員 ごみ減量映像による視覚的な広報という事で、6本の映像を作成してあるという事なののですけれども、これはホームページの方で見られるという事ですよ。それで、動画だけのものをクリックしたら全部見られるとか、という事はありますでしょうか。今、ホームページをちょっと見ているのですけれども、ちょっと動画がなかなか出てこないというか、探しにくいんです。探しにくいかなと思うのですけれども、ごみのところに「動画」という項目を1つ作っていただいて、そこをクリックしたら動画が全部見られるみたいなどころというのは、そういった事はできないでしょうか。

議長 行き着くのに、4つ目ぐらいじゃないと行き着かないのですよね。トップページのところで、ライフシーンのところの、便利メニューのところのごみリサイクルから入って行って、それから今度、ごみのところで「分け方出し方」「事業系ごみ」「減量化」「リサイクル」。このリサイクルの

- ところまで入っていかないと、ちょっと出てこないのですね。もうちょっと簡単に、動画に飛べると良いのかなと。
- 委員 あとアプリの項目にも無いのですね。ここに行けば動画が出るという、アプリですぐ行けるようにして欲しいのですけれど。
- 委員 そうすると、動画がポンと見られたら、ちょっと目に入ってくれば、とてもわかりやすいかなと思いますので。
- 委員 あっという間に動画の時代になったので、それを優先してやっていただかないと。
- 議長 ということなのでよろしく願います。審議会として。
- 委員 なんか、もったいないですね。せっかく6本作ってくださったのにね、こんなにたくさん作っていたのって、ちょっとこれを見て思ったので。最近の2月に実施したものは、つい先日さんあ～の方で配信されたので、それで初めて見たのですけれども、それ以外にもこんなにたくさん作っていらっしゃるのだと思って、これを見て驚いたのです。全部ポンと行けるようにしていただくとありがたいかな、と思います。
- 議長 よろしく願います。
- 委員 あと広報の方が、スタイルが変わったのですね。なんかすごくかわいい色で、ブンベツ君で、ちゃんとQRコードが入っていて、これやってみたら、興味がある人はポンと行けるので、すごくいいと思いました。あっ、進歩している、と。これで結構動画にも行けたりもしたのですけれど、本当に、せっかくあんなすばらしい動画があるので、みんながすぐ行けるような工夫なりPRなり、されたらどうでしょうか。
- 委員 どこをクリックしたら動画に行けるのだろうと、ちょっと考えてしまったので。
- 委員 知っている人でも行けない。
- 委員 そうなのですね。他の方はもちろん6本もあるという事もご存じないと思いますので。
- 議長 では、審議会として、よろしく願います。
- 委員 でもこれ、令和元年度には1万6千回数いったのに、最近少なくなってきたというのは、何かあるのですかね。なんか、だんだん減っていつてしまっているのが気の毒というか、どうしてなのだろうという。
- 議長 いや、令和2年度、令和3年度、令和4年度の方は、まだオープン期間が短いのですよ。だから元年度の方はそれだけ長くやっています。もっとね、今みたいに見やすく、たどり着きやすくすれば増えていくということで。作ったやつ、たくさん見てもらって。
- 委員 先日のリサイクル施設とかの工場見学会ですね、それちょっと参加できなかったのですけれども、この動画を見て、「こういうふうに分別しているんだ」というのがすごくよくわかったので、見やすいようにしていただければ、ありがたいかなと思います。
- 委員 見学会に出たのですけれども、やはりすごくびっくりして、もう感動したし、学ばせていただいたのですけども、それを伝えるのには動画があつたらいいなと思ったらもうできていて、びっくりして、こうやってご覧になった方もいる訳ですから。本当にこれを見ると変わりますよね。どれだけ皆さんが手で、現場でね。
- 委員 手作業なんですよ。
- 委員 そう。それがわかるので、これを前面に出して、それで減量につなげていくという。
- 委員 そうするとごみの出し方、皆さん手作業でしてくださっているのだと思ったら、出す方もちょっと考えるかなと思うのです。
- 議長 そういうことです。

委員 よろしくお願ひします。

議長 他にはいかがでしょう。

委員 ②の自由帳・下敷きの配布のところなのですが、下敷き、多分、A4サイズの下敷きを配付されているかなと思うのですが、小学生って、教科書もノートもB5サイズなので、もし今年も下敷きを配布されるようであれば、ちょっとA4だともったいないな、使いにくいから子供たちちょっと、せっかく配布されるのであればB5サイズがいいのではないかな、という意見です。

議長 という事です。

委員 教科書は小学校は、小さいですよ。中学校はA4サイズに、今はなっていますけれども。ただノートはA4サイズにはならないですよ。B5サイズ。

議長 ランドセルは変わったのですか。

委員 ランドセルは大きくなっています。今のランドセルは、A4サイズに合うように、ランドセルの大きさは今、作られているのでいいのですが、ノートってやはり小さいですよ。A4のノートは使っていないです、多分。

議長 では、そこはそういうことで。

委員 見学会に参加して本当に勉強になりました。現場の苦勞がよくわかって、自分の何かアプローチの仕方が変わるほど衝撃でしたけれども、この親子で参加という場合は、お弁当を持って1日がかりというのでいいと思うのですが、一般の方の参加は、ほとんど高齢者の方が中心だったのですが、朝8時半から本当に4時過ぎまでで、すごくハードで、皆さん、「これはきついわね、みんな1日参加したくても参加できないわね」と口々におっしゃっていて、前半のクリーンセンターだけでもすごく意義があつて、あと、小熊さんがちゃんとレクチャーしてくださるので、本当にただクリーンセンターを見るだけではないので、もう本当にありがたかったですけれども、そこだけでも意味があるし、後半の何か知らない、もう資源化する部分ですね、3軒くらい、後、最終ごみ処分場まで行きましたけれども、あそこちょっと午前と午後に分けて、でも、1人でも多くの人に見ていただきたい、でも、そうすると担当者のご苦勞が増えるので、ちょっと難しいですけど、まあ、1回ではなくて2回とか、あとは分けて参加しやすくするとか、クリーンセンターだったらものすごくみんな行きやすいので、いるのではないかと思います。一般の人でも見てみたいという人はいっぱいいると思うのですよね。

議長 今回も寒い中、フルコースで、私ももう、随分ご案内させてもらっているのですが、あれだけ見られるのって印西市だけなのです。全部そろって1日で見られるというのは、今おっしゃられるように、あれを分けて、こうやってもう少し参加者を増やして多く見てもらうってね、それを考えていきたいと思ひますのでよろしくお願ひします。

委員 本当に、分別する意味とか、午後の部というのは、もう、実際どれだけ苦勞されているかというのがわかったので、もう1人でも多くの人に。あとは映像を見てもらって、それだけでもね、わかったとおっしゃっていたから、だからそれが本当に減量に繋がると思ひます。

委員 児童生徒向けの学習機会の提供というのがあるのですが、中学校も小学校も、一年生の段階で、家庭教育学級というのがあるのですよ。全員が会員になつて。そういうところを例えば教材の一つとして利用すると、一般の保護者の方にも啓発が進むのかなと。いろいろな中から選んでいくのです。だからその中に、ごみ処理とかその分別とかというのね、どう選ぶかどうか別ですが、入れると結構、意義はあるのかなと思ひますけれど。

議長 実は先日も西の原中学校で3日間、2年生6クラス、出前講座をさせてもらったのですが

- も、ここのところ小学校の生徒さんには、まあ、コロナの関係もありましたからね。
- 委員 クリーンセンターもずっと見学ができなかったのですね。ただ、家庭教育学級というのは、保護者ですから、対象は。保護者が、学校に集まったりとか、講師を呼んで、保護者に対して、いろいろなものをこうやるのですよ。もちろん、子育ての悩み云々もあるのですが、結局、パッチワークとかいろいろなそういった趣味的なものも含めて、いろいろなものがこう並ばれていく場なので、そういうところも、もし、広報の中に入れれば、選んでいくところもあるかなと思います。
- 議長 かつて小林北小学校の時に、ちょっと保護者も参加してもらったような気も、始まりとして。
- 事務局 家庭教育学級の出前講座というところから選ばれているのかなと思いますけれども、そちらの方の掲載と、また、校長先生の方からも宣伝していただければ、校長会とか、ご協力いただければと思います。よろしくをお願いします。
- 議長 すみませんが、時間の関係もありますので、実施状況と次年度計画につきましては、ここまでにさせてもらいたいと思います。次のところをお願いします。

## (2) 第3次印西市ごみ減量計画の目標値について

- 事務局 ～資料3について説明～
- 議長 結論的には、2ページ目の4のところの、現在のままでいって、令和7年以降で、また必要に応じて再検討しますよということで、よろしい訳ですね。ということだそうですので、これについては特にございませんか。
- 委員 このことで印西地区のごみ処理基本計画って概要版配っていただいているのですけれども、この会議がある前に、この計画みたのですよ。そうしたら、全部打ち出してみようと思ったのですけど、すごくいっぱいあって、家庭ではとてもできないぐらいの量だったので、パソコンでちょっと見ただけなのですけれども、あれを見ると、基本計画が基準になって、それに準拠するような形で印西市の計画を作られていますよね。それが目標値になっているのですけれども、見直した基本計画を見ると、単なるその目標値をずらしたことだけではなくて、背景が変わってきたので見直すよということで、脱炭素社会の構築ですとか、要はカーボンニュートラルと、それからリニューアブル、そんなものが入ってきて変わっているのですよ。施策がだいぶ形が変わっているのですよね。その中で、単に目標を変えてそれで済ましてしまうのか、あるいはここで、この基本計画に合わせた、その施策の体系に沿ったものにするのか、そこはちょっと考える必要があると思うのですけれども。いかがでしょうか。
- 事務局 印西市の計画と印西地区の計画で、施策の部分で若干ずれがあって、向こうも、施設の管理とか、収集車の方の関係とかもありますけれども、今言われた部分につきましては、施策を外出しで、管理できればと思っております。
- 委員 外出しというのはどのようにするのですかね。
- 事務局 特例というか、今、アクション3までありますけれども、その他に、というような形で考えています。
- 委員 基本計画を見ると、カーボンニュートラルなんかをかなり意識したような感じで、プラスチックごみの削減を前に出してきたり、それから食品ロスなんかかなり大事なのでそれが前に出てきたりして、その重要度が変わっているような気がするのですよ。そこを外出しのそれやると、どのようになるのかちょっと想像がつかないのですけれども、それであと、SDGsのこの考え方をここに入れ込んできていますよね。

事務局 その辺が、うちの足りない部分については、外出しと言いますか、外出しという言葉になってしまうのですけれども、別で管理していければというところなのですから、

議長 この印西地区の基本計画の方で、3番の課題のところではいろいろな諸条件のところはどんどん変化していってしまいますから、当然の話で、数年経てば見直しをせざるを得ないでしょうね。

委員 それで、これを見ると、3年間でコロナとかいろいろなものがあって、それでも対応できなくなったから、それをずらすんだよ。ずらすにあたっては、カーボンニュートラルだとか、プラスチックの問題だとか、そういうものがあるから見直すんだみたいな、そんな趣旨のことだったように私は思うのです。だから、それを受けたこれが、やむを得ないのかな、目標だけをずらして、あとはそのまま、というの、ちょっと引っかかるところがあるのですよ。

事務局 ずらすのではなく、このままの施策でいきたいということで今、提案させていただいたところですよ。また、市の施策と、印西地区の施策なのですから、ほぼ網羅されている状況でございます。大きくはプラスチックの削減の取り組みとか、バイオプラスチックの普及啓発とかというところがちょっと、印西市の中の施策ではない部分ではあるのですけれども、あとは大体網羅しているのかなと思っております。もうちょっとよく精査して、対応していければと思えますけれども、足りない部分につきましては外出しで対応させていただきたいと思えます。

議長 ということですので、市の目標値については、このままで、現状ではいきたいと思えます。

委員 基本理念のところ、3Rまでついていけるのですけれども、リニューアブルということ、今、引いてみたら再生可能という意味なのですよ。これ、括弧で、みんなにわかるように、日本語も入れてください。基本理念のところ、英語が入っているのですけれども、いきなり出てきて。

委員 要は、自然系のプラスチックに移行しようということなんですね。循環できるプラスチックに。

委員 だからそれがわからないです。この基本理念で私は理解できなかったもので、ちょっと日本語で補っていただきたいのですけれども、みんなにわかるように。

委員 それは、米印か何かつけて、解説しておけばいい。

委員 そうですね。そうすると挫折しない。

事務局 意見としていただいて、組合の方にちょっと伝えたいと思えます。

議長 お願いします。

### (3)その他

議長 では、本日の、議題の方は以上でございという事でよろしいですかね。他に皆さんの方から、質問その他、ありますか。

委員 資料2の方の、令和5年度の活動目標というのがあるのですけれども、この部分というのは、次年度の事業計画書として作るのですか。それともこのままの状態になるのですか。

議長 これが活動目標ですから。

委員 体裁を整えて、例えば活動計画とか、ちゃんと目的とか、一連の流れで書いていくようなものは作られないのですか。

議長 どうしますか。この中の詳細をこういうふうな、PDCAで、計画でやりますよとか、これは単純に数値だけ入っている世界です。

事務局 当初の予定としましては、こちらの活動目標、今回、令和5年度というふうにやりたいと。またこれを基に、令和5年度の進捗を作っていこうかと。

委員 自分の感覚だと、令和5年度の、実施計画の趣旨だとか、期間だとか、主体だとか、一連の流れで書いていって、その中で目標というのは数値が出てきているから、その数値が目標で、ここに書いてあるのは取り組みだと思えるのですよね。だからそんな形で、年度が始まる前だから、今の時点で、事業計画ではないけれども実施計画書として作り上げて、それで実行して、年度が終わって、実施報告書というような形でまとめていくのが、普通のやり方だと思うのですけれども。

事務局 文書のようなものですか。

委員 文書というか、実施計画書ですね。

委員 手立てですよ。目標があったら、それを達成するために具体的に何をするのか。

委員 何のためにこれをするのかということが。

議長 だからPDCAが入る形なんです。プランがあって、それではどうするか。それで、そのあとのCのチェックがあって、次のアクションが、それは結びつく話ですから。だからそれと、年間のタイムスケジュール、いつ頃こう、というものができるとか。

委員 何か前はそれ、作っていたような気がするのですけれども、この計画の前は。これに似たような感じで作っていたように思うのですけれども、勘違いかな。

事務局 こちらに施策の状況を示させていただいたのは、印西市のごみ減量化計画をもとに、施策を並べさせていただいて、進捗管理をさせて、報告をしているところでございますけれども、こちらの計画の方はですね、その数値とかそういうものは、載せていない状況でございまして、委員の皆様の見解から、目標数値とか載せたほうがいいのかということで、前回から予算書などから数値を出させていただいているところです。なので、今現状ではですね、こちらのやり方で進めさせていただければと思っております

議長 では、ちょっとそのあたりはご検討いただいて、次の時に、こんな感じでというふうに説明できるようにしていただけますか。ただ文言で項目だけで、数値が入っていると、その裏付けだとか、具体的に何をどうやるのかというのが見えないのですよ。だから、そういうふうなものがないと、動かせないと思うのですよね。無理のない範囲で、作っていただければ。この表の令和5年度目標が右側にあるでしょう。これが真ん中に来ればいい話なのです。極端なこと言うと、真ん中にきて、こちらの方に展開をどういうふうな展開をしますよというのが、説明だけであれば。

事務局 そうするとですね、本当は計画の方のアクションというのを載せたほうがいいのかと思いますけれども、これがそれぞれあるということで、その実行計画がこちらに今、書かれているものになってくるのかなと思うのです。ただそれを載せてしまうと、もっと大きくなってしまふということと、見づらくなってしまふのかなということ。

議長 アクションが一番左側の方にもう事業名が入っているからいいのではないですか。それが大項目だから。その隣が活動目標になって、それに、もしあれだったら説明がつけばいい話。説明不要なものだったら説明も入れることないのではないですか、もう単純に数値だけでもわかってしまうようなものなら。

事務局 この事業名があって、令和5年度の活動目標が次にあって、説明があればいいという事ですか。

議長 ええ。それで何をこういうふうに行っていくよというのが分かればいいのではないですか。求めるものはこの一番左側の事業名があって、もうそれですべて言っている訳ですから。

委員 私が言っているのはそんなに難しいことではなくて、令和5年度の印西市ごみ処理実行計画

とか、そういうものを作られれば、いいですよ。そういうものというのは、目的があって、それで、現状がどうなのか。これと同じですよ、処理計画と。そういう一つの冊子を作って、体裁を整えておいた方が、わかりやすいし、後々残るし、いいのかな。これだけだと、ただ取り組みを書いているだけの話で、事業としてこれでいいのかなと思ったところです。それ以上結構です。

議長 それを作ることによって業務量が増えるのではちょっと問題なので、施策を実施してもらう方が目的ですから。こういう計画書を作るのが目的ではありませんので。単純に言いますと。

事務局 今、委員がおっしゃったように、内部管理として毎年の計画というのも1つですけれど、審議会の委員の皆様判断していただくのは、まず大きな方向性の部分が一番だと考えております。担当部署としては毎年計画を作成するというのではなく、その中で判断する材料として、数値化できるものとかは、何でもお示しするという考えでいますので、進行管理していく上で、どのような資料がいいのかっていうのは、常にちょっと考えさせていただきますけれども、まず会長がおっしゃったように結果が出ないと意味がありませんので、ちょっとそのあたりを中心に考えさせていただきます。

議長 お願いします。

委員 あと、年度の進捗について、この前、資料をちょっとお渡ししたではないですか。あんな感じで進行管理していったら僕はいいかなと思って、ちょっとご提案したのですけれども。少し考えてみてください。

議長 これで他にご意見なければ、質問なければ、議事の方は終了したいと思います。

印西市廃棄物減量等推進審議会の会議録は、事実と相違ないので当審議会は、これを承認する。

令和5年4月24日

印西市廃棄物減量等推進審議会

委員 山崎 久恵

委員 森内 栄一